

問いかけて待つ。それこそ祈りではないか。



眞鍋せいら (歌人、文筆家)

学生の頃からフェミニスト文芸サークル「夏のカノープス」の一員としても執筆活動を展開。

2024年には、築地本願寺ブディストホールで関東大震災後の朝鮮人虐殺を描く短編劇の脚本、演出を手がけるなど、批評や随筆、小説や演劇、そして短歌と、さまざまな表現を試みてきた眞鍋さん。昨年、おそらく日本初の「クエスチョニング」をテーマとした書籍を刊行、今年2月には約10年来の短歌を収録した第一歌集『人魚と林檎』を上梓。まだ見ぬ誰かに向けて、現実を見据えて言葉を紡ぎだす。そこに賭ける思いをお聞きしました。

誰がクイアか決めるのはあなたじゃない

— 昨年、「ご自身のセクシュアリティをテーマにした『今日もクイアでクエスチョニング』という共著を編集、出版され、話題になっていましたね。日本語で「クエスチョニング」の経験を扱った、たぶん初めての書籍じゃないでしょうか。この本を作ろうと思ったのは、たとえばバイセクシュアルの人に対して「女性も男性も好きになるという両性愛者は結局、異性愛者の枠のなかで生きられるじゃないか」といった差別的な言説をSNSで見ることがあったんですね。つまり、「一旦はクイアというマイノリティとして連帯するけど、結局はマジョリティ側になる人たちが一定数いるじゃないか」と。こういった非難は、LGBTQ+のなかで言えば、バイセクシュアルに相当するBだけでなく、Qに当たるクエスチョニングにも向けられていると感じたので、クエスチョニングの経験についてもつと話したいと思ったんです。

* Questioning: 性的指向や性自認に問いを持っている人。
** Queer: もとは性的マイノリティへの蔑称だが、マジョリティの規範を問う、尊敬ある言葉として捉え直されてきた。

だ」と考えたようなんですね。

とはいえ、実際に短歌を作ったときの経験は、20代ははじめからの鬱だった時期に結びついていて、作歌を始めて現在で大体10年になるので一区切りというか、ここまで生きてこられたなというのが一冊にまとめるきっかけとあります。

— 歌集の刊行に際し、作家の大前栗生さんが「倫理性を手放さない」姿勢を感じる、と評されています。たとえば、「うつくしい言の葉をもてうつくしい夢を見ていることの特権」と、美に浸ることを「特権」と示されたり、「うつくしいことばの本を投げつける そう簡単に救われるなよ」という歌があり、美に対する一種の警戒心を読み取れます。

何か美しいとされるのは相対的なことですよ。短歌の世界ではよく月や花が美しいとされますが、月や花そのものに美があるのではなく、鑑賞する人が一方的に美を感じてい

べきではない。

本来、クイアというのは世間一般のマジョリティに対して問いかける言葉だと思うんですね。その意味では、何らかのラベル付けを問いに付すクエスチョニングもクイアのあり方です。そして、「今日も」というのは「昨日も今日も今のところは」ということを大切にしたいんです。クイアはクイアとして一貫していなければ「本物」ではない、といった非難は基本的に権力を持つ側、マジョリティから出されます。マイノリティが自分のことを流暢に説明する必要は、実は全然ない。たとえ、あなたが明日違う人間になっていても構わない、と言いたかったんです。

眼前の現実を反映する詩

— 歌集『人魚と林檎』のことを聞かせてください。作歌を始めたきっかけというのは、

もともと小説や詩を書くことは好きでしたが、「短歌が向いている」と、私に最初に言ったのは、新聞記者だった母でした。母は私に関して「文学になじむんじゃないか。しかも自分を歌い切る詠嘆向きで、だから短歌

クエスチョニングとは、ゆらぎ、変化に開かれている状態だ。

(今日もクイアでクエスチョニングより)

「今日もクイアでクエスチョニング」という題はかなり早い段階で考えていました。まず「クエスチョニング」という言葉を表に出したのは、このテーマの文献があまりにも少ないから可視化したかった。「クイアで」というのは、クエスチョニングはクイア・コミュニティの一員であることを強調したかったんですね。「LGBTQ+のQはクイアの頭文字であって、Qがクエスチョニングであれば、クイアという言葉の居場所をクエスチョニングが奪取る」とになるのではないかと考える人もいます。Qはクイアでもクエスチョニングでもある。そもそも、誰がクイアで、誰がクイアでないかを当人以外の第三者が決める

続きは本誌でどうぞ

性的マイノリティが差別に対峙する過程で、
みずからを捉え直してきた言葉——「クイア」。
マンガでも周縁的に描かれがちだったかれらが、
昨今、主人公として語られはじめています。
多数派偏重ではない、一人ひとりの物語を特集します。

クイアなマンガ

主人公になる自分

イラスト…恋人と出かける主人公「けいと」／南Q太『ボールアンドチェーン』マガジンハウス3巻裏表紙



すべてが光り輝いて見える。 自分がわかるというのは、そんな気持ちです。

南Q太

**作者である私は
二つに分かれているんです**

『ポールアンドチェイン』(マガジンハウス)の主人公は二人います。「けいと」は、ジェンダー・アイデンティティに揺らぎがある若者。「あや」は、夫に疎まれ、孤独を感じている中高年の主婦。物語は別々に進行しつつ、少しずつ交差していきます。主人公たちはどのように着想されましたか。

実はいつも、連載をはじめるときにはあまり決めてなくて、わりと思いつきです。この連載を始める前は、気づけば漫画家としてのキャリアも結構長くなってきて、もしかしたら

「もう終わりかな？」ぐらいに思われていたかもしれないし、自分でもそう思ってたんですよ。

そんなとき、編集さんから、「SHURO」(マガジンハウス)という

漫画のwebメディアを立ち上げるから一緒にやろうと声をかけてもらいました。その人はシスジェンダーの女性なんですけど、「30代でバリバリ働く会社員の女性の物語を描いてほしい」とリクエストされたんです。

何も考えず快諾したんですけど、進めるうちに行き詰まってしまった。しつくりこなかったんです。それは、私自身が「働く女性の悩み」とか「女性ならではの…」みたいなことに、

はつきり言ってしまった興味がないからだ、後になってわかりました。引き受けた手前、困ったなと思いましたが(笑)。

作者である私は、二つに分かれているんです。「性別にモヤモヤしている若い頃の自分」と、周りの目から見て「家庭にいる中高年のおばさん」である現在の自分。私自身は一人なんですけど、物語に描こうと思っ

た。作者である私は、二つに分かれているんです。「性別にモヤモヤしている若い頃の自分」と、周りの目から見て「家庭にいる中高年のおばさん」である現在の自分。私自身は一人なんですけど、物語に描こうと思っ

全然思っていなかったんです。だから、自分からは積極的に情報収集をやってこなかった。でも、気まぐれにエリス・ヤングさんの『ノンバイナリーがわかる本』(明石書店、上田勢子訳)を手にとったら、「あれ、おかしいな。なんでこんなにも意味がわか

るんだろう」って、どんどん自分の謎がわかっていくような感覚でした。——4巻では、専業主婦として暮らしていた「あや」が、「50年生きてきてようやく気づいた/今はつきりわかった/それがとても嬉しい/皆に大声で言いたい/私は女性が好き」と心の

なかで叫びます。自分がわかることで人生を取り戻すような、最高のシーンです。消えてしまいたい

と思っていたのに、すべてが光り輝いて見えるような、ぱっと人生が開けていくような。自分がわかるというのは、まさにそんな気持ちだなと思います。

登場人物は、自分の友達だと思っています。作者というよりは、この人はどんな人か、どんな気持ちなのか想像するよくなつても描いています。1話冒頭で

**この感覚自体
誰にもわかってもらえない**

——1巻のあとがきでは、「私がノンバイナリー*というジェンダー・アイデンティティを自覚したのは、50歳を過ぎてからでした」と書かれています。

この漫画を描き始める前は、すごく気分が落ち込んでいたんです。つらいことなんかないはずなのに、消

*ジェンダー・アイデンティティが、男か女という単純なバイナリー(性別二元論)の枠に収まらない人。

「あや」は、「私はいつもどこか遠くへ行きたい」と言っていたんですけど、気持ちがよくわかりませんでした。周囲から見れば「普通のおばさん」にしか見えないけど、なぜこの人は苦しんでいるんだろう、と。その理由は、この4巻でやっとわかりました。自分が描いているものに

自分が教えられるんです。読者から教えてもらうこともあります。「あや」は結婚している。あと、男性とセックスするのが嫌いなんです。だから私も、途中まではアセクシユアル^{*}なのかなと思っていたけど、中性的な友達「みどりさん」には明確に恋愛をしていました。そこがよくわからないでいたんですけど、読者から「あやさんはレズビアンなのに無理しているから、こんなにつらいんだよ」という感想がありました。私は「ああ、そうだったんだ」と思ってたんです。

*他者に対して性的に惹かれたり、性的な関係を望まない人。

**苦しい思いも
肯定したい**

——もう一人の主人公「けいと」の、

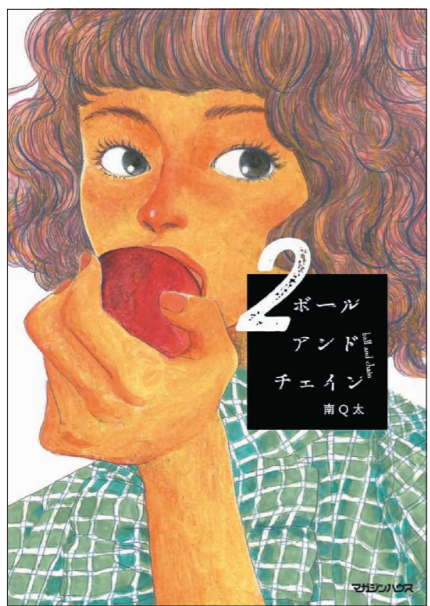
えてしまいたくなるような。何度も病院に行っただけ理由がわかりませんでした。いろいろ悩んで、「もっと女らしくなったほうがいいのかな」「もっと太ったりして、おばさんっぽくなったほうが人生楽になるのかな」「そもそも、なんでこんなことを考えるんだろう」とか、自問していました。

とにかく、自分で自分のことがわからなかったんです。女性誌や男性誌で仕事をする、だいたい「主人公を女にしてくれ/男にしてくれ」と言われます。でも私のなかでは、女の人のこともわからないし、男の人のこともわからない。そしてこの感覚自体も、誰にもわかってもらえない。親身になろうとしてみてくださいる人にさね。

今までの作品では、言われっぱなしだったりしたんですよ。でも今回はネームを描いたりしているなかで、ちゃんと言い返したほうが話が進むなと思ったんです。

最近、鴻巣麻里香^{さん}の『自他の境界線を育てる——「私」を守るパウンドラー』(ちくまプリマー新書)という本を読みました。人に平気で暴言を吐く人って、人と人の間にあるはずの境界線(パウンドラー)を踏み越えてしまっているんだと思います。それは要するに暴力じゃないですか。「けいと」みたいに闘っている人には、「いいぞ、もっとやれ！」って思うんですけど、闘っている人たちだって削られているんです。暴力を振るう人とは、基本的に距離を置くしかないですよ。

私は、人から見た目のことを言われるのがすごく嫌なんです。「かっこいいね」「若く見えるね」とか、褒めてるつもりかもしれないけど、それですら嫌なんです。私は、恋人同士でも言わないですよ。相手が寝ぐ



南Q太「ポールアンドチェイン」(マガジンハウス)1巻では主人公の「けいと」、2巻ではもう一人の主人公「あや」の若き日の姿が描かれている。

子どもの頃のわたしへの手紙

水上文

こんにちは。お元気でしょうか——というのも、少し変ですね。だって、手紙の宛先であるあなたは過去のわたし自身で、あなたがどんなふうにごりごりしていたか、わたしは誰よりよく知っているからです。

クイアが主人公になる漫画、ということを考えていて、わたしはあなたに手紙を書くことを思いつきました。小学生にあがってはじめて漫画を読み始め、なかでも少女漫画誌『りぼん』(集英社)に夢中になって、毎月の発売を楽しみにしていたあなたに。『りぼん』に登場する、自分より少しお姉さんの登場人物たちに憧れ、彼女たちのように美しく成長し、そして漫画のような心躍る出来事が自分の人生にも起こることを夢見ていたあなたに。ほかでもないあなたに宛てて、漫画の話を書いてみようと思ったのです。

さて、先に言った通り、わたしはあなたのことを誰よりよく知っています。

だからあなたが、種村有菜『神風怪盗ジャンヌ』を、その主人公のまるんちゃんをたまらなく大好きなことを知っています。彼女の優しくて強くて可愛いところを、どれほど愛しているか知っています。でも、だからと言って、まるんちゃんのように長く細い足に憧れすぎるのは考えものです。漫画に出てくるスタイル抜群の女性たちは、現実の女性たちと必ずしも重なっておらず、またそのスタイルに憧れるあまり、ごはんを食べなくなってしまう

どうしに見えるのに、どうして男性の恋人を持つのかと不思議に思ったことも、知っています。

どうしてでしょう？ 大人になったらその疑問が解消しているかといえば、実はまったく解消していません。すっかり大人になったからわたしは、未だに首を傾げています。

ただ、今のわたしは、たとえばまるんちゃんとフィンのようなふたりが「恋人」になる物語を、どうして見つけることが難しかったのか知っています。

それは「異性愛規範」のせいです。女の子を好きになる女の子、男の子を好きになる男の子は現実にもかわからず、「みんなが異性を好きになるはずだ」というふうによくの人が考えているから、漫画のなかにも出てこないのです。

また、あなたには友達が一番なのに、どうして少女漫画のなかの女の子はいつも「恋」をするのだろう、とも思っていますね。もちろん、友達が一番で何の問題もありません。恋愛をしなくたって、そんな気持ちを一生抱かなくていいのです。恋愛をしない人も現実にはたくさんいるけれど、「みんなが恋愛をするはずだ」というふうを考えている人が多いので、漫画もそうになっているわけです。

特に大人には、そんなふうを考えている人が多いので、注意しなければなりません。女の子に恋をしたり、恋愛じゃなくて友達が一番だと思ったりしているあなたに、嫌なことを言うかもしれない。知ってるでしょう？ 大人ってバカなんです。

でも、素敵なニュースがあります——なんと、女の子どうしが恋をする物語が、今は『りぼん』でも読めるのです！

わたしは知っています。木村恭子『きみのことがだいすき』が、

うのはいけません。それから、漫画の

なかでは、後にまるんちゃんの恋人に

なる男性が彼女に強引に迫り、特に

合意も取らずにキスしたりするシー

ンが「どきどきする」ものとして

登場しますが、現実の恋愛がそう

いうものだと思っはけません。

はつきり言います。嫌なことは嫌だ

と言っはいいのです。漫画のなかで「どき

どきする」ものとして描かれているからといって、

あなたがどきどきするとは限りません。漫画で描かれ

ていることは、現実とは違う場合が実は色々あるのです。

また、あなたが読んでいる漫画には、なかなか出てこない事柄もあります。

あなたは『神風怪盗ジャンヌ』で、まるんちゃんとその相棒の天使・フィンのおふたりが大好きですね。まるんちゃんを「大好き」と言っはいたフィンが、まるんちゃんに「大嫌い」と言う場面で、胸が切り裂かれるような痛みを覚え、涙があふれて止まらなかったことを、わたしは知っはいます。そのあと無事に再び「大好き」どうしに戻れたふたりを見て、またたくさん泣いたことも。そして、彼女たちはお互いが一番の「大好き」

あなたが何より読んだかった物語だということ。大きな瞳がきらきらして、思わず真似したくなるような可愛い姿をしている、あなたの大好きな少女漫画の女の子が、女の子に恋をする物語。ほかの人と違った自分を知る手段をうまく見つけられずにいたあなたに、LGBTQIA*という言葉の手がかりも教えてくれて、あなたはひとりではないと思っはせてくれる物語。残念ながら今でも同性どうしで結婚することはできないのだけど、そんな苦しさを吹き飛ばすように、じゃあ自分が総理大臣になっは法律を変え、と言っは女の子が登場する物語。

わたしは、本当に心から、あなたにこの漫画を読ませるであげたいと思っはいます。

実を言っは、わたしはこの漫画を読んで、すこし泣いてしまいました。今でもこの手紙を書きながら、泣きそうになるのをこらえています。だっは、わたしはあなたよりずっと先の未来にいます。に、まだ結婚できないなんて、そんなのあまりにも理不筋だから。法律を作る大人たちっは、どうしてこんなにバカなんでしょう？

でも、自分も大人のわたしがそんな泣き言を言っはいては、あなたに呆れられてしまうでしょうね。だから、バカな大人のひとりとして、あなたやあなたのような子どもたちが、自分のことだと思っはる漫画をもっとたくさん読める社会になるように、そして現実がもっとマシなものになるように、わたしなりに頑張りたいと思っはいます。ぜひ、あなたが苦しくなっはた時には思い出してください。『きみのことがだいすき』が待っはっていることを。見えなくても、それぞれの仕方で闘っはっている人が、きつとあなたの隣にもいることを。きつとより良い未来があることを。

*レズビアン(L)、ゲイ(G)、バイセクシュアル(B)、トランスジェンダー(T)、クエスチニング/クイア(Q)、インターセックス(I)、アセクシュアル(A)。



『はじめての百合スタディーズ クイア/フェミニストの視点から』 著者/近藤銀河 水上文 中村香住 発行/太田出版

みづかみ あや

1992年生まれ。文筆家。著書に『クイアのカナダ旅行記』(柏書房)、編著に『われらはすでに共にある——反トランス差別ブックレット』(現代書館)、『エトセトラ』vol.13「特集 クイア・女性・コミュニティ」(エトセトラブックス)など。



地獄・極楽を読み解く

— 新解『往生要集』 8

文 || ロバート F. ローズ
 絵 || 我喜屋位瑳務

念仏の助けとなる
 さまざまな方法

助念方法の七項目

前回は『往生要集』の第四章に当たる大文第四「正修念仏」に見られる源信の念仏観について詳しく検討してきました。そこで今回は、次の大文第五「助念方法」に目を向けてみたいと思います。この章の冒頭で源信は「一目の網は鳥を得ることあたわざれば、万術もって観念を助けて、往生の大事を成ずるなり」と述べています。その意味は、たった一つの目しかなく網では鳥を捕えることができないように、念仏だけ

続きは本誌でどうぞ